

デジ教研議論

R136

教員の多忙感解消のアイデア
I T技術者と考える

デジーです。よろしくね！



(c)hayashi emiko

みんなのデジタル教科書教育研究会
Facebookグループ

R136 教員の多忙感解消のアイデア | T技術者と考える

この記事は2015年10月10日、11日、17日に行われた『先生発！最新のICT技術で教育現場を変えるハッカソン』について書かれたものです

★投稿(投稿者=A)

【情報共有】

「ハッカソン(注1)」という言葉はIT畑の人なら知っている言葉でしょうが、まだ一般的ではないと思うこの言葉の説明も付け加えてNHKがニュース(注2)で紹介していました。



参加者は「業務を効率化して生まれた時間を、授業の充実や子どもとの対話に充てたい」と話していました。

主催した協議会の会長で、東京工業大学の赤堀侃司名誉教授は、「先生たちは楽をしたいわけではなく、子どもたちと向き合う時間をより作るために、さまざまなアイデアを出していました。こうした技術を学校現場に広く普及させる必要があります」と話していました。



ここは「デジタル教科書教育」研究会と名乗っていますが、校務事務の効率化など、「教科書」だけにこだわらずこのようなものも扱ってもよい場だと思います。現場にとって何が必要なのか、どんなことが問題なのかを知ることも。それとITがどう関わるかも。

編集者注：

(1)「ハッカソン」は、「広い意味でソフトウェアのエンジニアリングを指す“ハック”(hack)とマラソン(marathon)を組み合わせた米IT業界発祥の造語で、もともとはプログラマーやデザイナーから成る複数の参加チームが、マラソンのように、数時間から数日間の与えられた時間を徹してプログラミングに没頭し、アイデアや成果を競い合う開発イベント([Weblio辞書「ハッカソン」](#)の項から引用)」を指す。

▼Weblio辞書「ハッカソン」

<http://www.weblio.jp/content/ハッカソン>

(2)NHKニュースで紹介されたイベントの詳細は、ICT CONNECT 21でレポートされています。

▼先生発!最新のICT技術で教育現場を変えるハッカソン ICT CONNECT 21

<https://ictconnect21.jp/hackathon201510/>

▼教員の多忙感解消のアイデア | T技術者と考える NHKニュース

<http://www3.nhk.or.jp/news/html/20151017/k10010273791000.html>

※現在は、記事が削除されています。

いいね！ ・ 74

投稿日時：2015年10月17日 20:58

<https://www.facebook.com/groups/dkyof/permalink/1011480045560895/>

★サマリー編集：岡崎マミ、JunkoAzuma

★議論

B 多忙感??いや多忙だしf^_^;

いいね！ ・ 1

C 先生とエンジニアの化学反応の場でした。実に刺激的な3日間を楽しませて頂きました。

いいね！ ・ 5

D この企画、NHKさんが取材してくださったんだ。ありがたいなあ。

いいね！ ・ 2

E 3日間、とても貴重な体験をさせていただきました。(^^)

いいね！ ・ 2

F 企画運営側でした^^ 教育に対し熱い想いを持っているエンジニアやデザイナーはたくさんいますが、教育界の参入障壁はとても高いです。今回のように現場の先生や学校と関わりを持てる場は、彼らにとっても大変貴重な場になったと思います。是非先生方も視野を広くし、色々な方々とのコラボレーションを試みて下さい。

いいね！ ・ 6

G 偶然NHKのニュースで見ました。このような取り組み自体否定はしませんが、そもそも問題解決の方策の立て方が、方向違いのように感じています。

教員が本来業務に専念できるようにするには、本来業務以外のことをやるための人員確保が先でしょう。だいぶ前になりますが、学校事務職員の増員の話もありましたが、立ち消えになりました。それどころか、某県では事務職員の削減が進んでいます。

理由は何かというところ、IT導入による事務効率の向上による、削減ということなんですね。このようなことは教育業界に限らず、よく見られることなのですが、ヒト、モノ、カネと言いますけれども、業務量に見合った人員配置はどうしても必要なわけですし、特に教育活動の場合はどうしても

人手をかけないと出来ない業務は残ります。このあたりの見極めをしっかりとした上で、進めていかないと、単なるヒトの置き換えに使われるだけであると、危惧します。

いいね！ ・ 6

F 丸一週間の取り組みを3分で理解していただくのは難しいですね。アイデアソン、ハッカソン3日以外もみなさんやりとりや開発をされていました。その成果発表が昨日でした。今回のプレゼンテーションでは、先生方より削減した時間を子供たちと向き合う時間を向けられるのだと言われていました。テクノロジーの活用の一つのソリューションとして捉えることで、よいのではと感じます。

前回2月に開催した時には、デジタル教材と限定してアイデアソン、ハッカソンを行い、授業での活用から考えたアプリや仕組みが生まれました。今回は、大きな視点で教材でも仕組みでもなんでもOKとして行ったところ、多くの先生方が多忙！負荷！というワードから仕組みを考えていたように感じます。会場には様々なモノやあらゆる得意分野を持つエンジニアがおり、色々対応できる体制でしたが、技術的にはオーソドックスなものでした。

今回の一番の成果は、これまで特定のパワー、影響力をもった先生方にしかエンジニアや企業との繋がりが生じにくかったものが、若手やちょっと試してみたいと思った先生方がダイレクトにエンジニア、デザイナーと損得勘定なしに繋がり、継続していくネットワークをつくれたこと。そして夕方からの共創会議という場で、参加者各々が意見や感想を共有するという経験から、多様性の理解による変化を自ら実感したことだと思います。

いいね！ ・ 2

G 例えば中学、高校ですと、多忙の一つの要因として、部活動指導があります。文科省も以前から指摘してますが、なかなか改善しませんね。

いいね！ ・ 3

H G先生、全くその通りだと思います。もう現場の努力うんぬんではなく、仕組みを変えていかなければ。IT畑で言う「デスマーチ（注3）」ですよ。

編集者注：

（3）IT業界で使われる“デスマーチ”は、「システム開発現場の過酷な労働環境※」を指す。「悪条件が重なり、開発チームが過度のオーバーワークや疲弊状態に陥った※」ITプロジェクトを意味する表現。英語本来の意味は、軍隊での過酷な訓練を指していた。

※IT用語事典 e-words デスマーチ【death march】死の行進/デスマの項から引用。

いいね！ ・ 2

A G先生の危惧するところはおもってもです。もっと広い視点にたてば協議会レベルではないでし

よう。一方でできるところから何かに取り組んでいくこと意義もあるかと思います。

いいね！ ・ 2

2015年10月18日 15:40 議論終了

教員の多忙感解消のアイデア IT技術者と考える

<http://p.booklog.jp/book/104497>

著者 : digikyoken (「みんなのデジタル教科書教育研究会」facebookグループ)

著者プロフィール : <http://p.booklog.jp/users/digikyoken/profile>



クリエイティブ・コモンズ 表示 - 非営利 - 改変禁止 2.1 日本 ライセンスの下に提供されています。

<http://creativecommons.org/licenses/by-nc-nd/2.1/jp/>

感想はこちらのコメントへ

<http://p.booklog.jp/book/104497>

ブックログ本棚へ入れる

<http://booklog.jp/item/3/104497>

電子書籍プラットフォーム : ブクログのパー (<http://p.booklog.jp/>)

運営会社 : 株式会社ブクログ